

# 足回り安全対策を最優先

ネクスト（北海道北広島市）の岩村大樹社長は「過去の輸送機における重大事故の状況をみると、日頃の点検整備を怠り、部品交換の時期を延ばすなど、人為的なミスだった例が少なくない。顧客が物流事業者の車両に求める安全性以上に、われわれは目に見えない部分にも徹底して気を配る必要がある」と語り、安全管理コストへの資金投入を惜しまない。

事業を開始してまだ4年目の同社は、前身の旧東日本輸送からシャシーを引き継いだ。1990年代から使用している車両には、劣化が進んでいるものも多かった。

「シャシーは無人航送に使い、他社との貸し借りも多いので、管理者不在に陥りやすい。しかし、そのチェックを怠り、ひとたび事故を起こせば、会社の存続にもかかわる。コストが掛

## ネクスト

## まめなメンテで信頼性確保



目に見えない部分にも気を配り、入念に点検

耗を見つければ、昨年、保有シャシー159両のうち120両分を一気に取り換え、2千数百万円を投入した。ことしから来年にかけて、今度は100両以上のフレキドラムの交換を検討しており、足回りの安全性を高めるための対策を何よりも優先している。

かつて、先々を見据えてやるべきことをやらなければ」と岩村氏。

現在は整備管理を担当する輸送事業部の山本浩係長を中心に、全車両の状態を入念にチェックしている。フレキドラムとライニングを密着させるためのカムシャフトの劣化や、スプリングサスペンションを連結させるイコライザーの消

また、シャシーのコンテナファンモーターのデータを、荷主が開発したソフトに入力すると、ファンベルトやバッテリーなどの部品の交換時期が分かるようになっている。そのデータを3か月に1回、必ず荷主に報告。まめなメンテナンスによって信頼性を確保するなど、コンプライアンス（法令順守）の徹底に努めている。

（北 博樹）